中外製薬におけるRPA全社展開

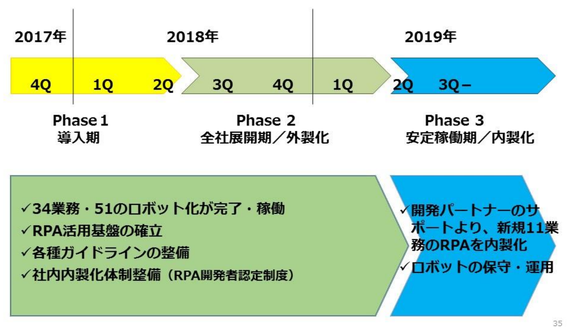
～RPA開発内製化に向かって～

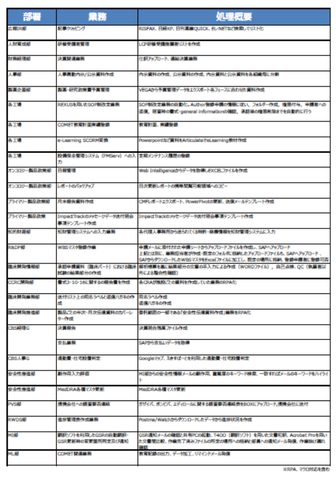
01 サマリー

開発パートナーとの共同タスクから スタートし、自社開発の仕組みを確立した

2017年より開発パートナー共同でRPA開発をスタート。プロジェクト発足当初は手探りであったが、RPA推進体制や認定制度を整えることにより、2019年には社内でRPA作成をする内製体制を確立した。現時点で近日稼働予定のものを含め11業務の内製化に成功。

RPA 活動状況（2019年9月末時点）





部署	業務	処理概要
人事部	従業員マネジング	ADP入力、日別勤務(ZLDCX、BLINETSO)取込、パスワード
人事部	研修管理	研修管理簿作成
研究開発部	治験関連業務	治験データ集計、連絡と調査業務
人事部	人事関連のRPA	RPA運用のRPA作成、SAP運用のRPA作成、RPA運用のSAP運用を全部署に分散
臨床開発部	臨床・研究所関係予算管理	VRQAのV予算管理データ9,237件→各プロージェクトに合わせSAP運用RPA化
人工腎	KEKULE(電子カルテ)SCOPE報告文作成	SCOPE報告文作成時の記憶に、Auditor登録申請の情報(氏)、ID入力データ作成、報告日付、申請書へのコピー、受理時の確認（general information）機能、承認後の報告時の文字を自動入力プログラム
人工腎	COHRT新規対象者選択	新規対象、無選択
人工腎	e-Learning SCORM変換	Powerpoint版「腎科RA Acute NeLearning」RPA作成
人工腎	血液浄化管理システム（PHSeries）へのX入力	定期メンテナンス機器の稼働
データ2部・臨床開発部	月報管理	Web DataBoard内のデータ抽出(新しいXCSS_ファイル)を作成
データ2部・臨床開発部	レポートハンドリング	日次更新レポートの時間短縮(「新規登録」のエクセル)
プロセス第一臨床開発部	月末棚卸業務RPA化	CMPレポート2万3千ポート、PowerPivotの更新、送信メールタンプレート作成
プロセス第一臨床開発部	Unpaid Track内モニターデータ内の不明分解決業務のフロー作成	Unpaid Track内モニターデータ内の不明分解決業務フローフロー作成
経済性部門	社内管理システムへの入力編集	各内容入場時用内容ならびに（訪問時・会議情報等）社内管理システムへ入力
品質部	年間パスト情報作編	年間チェックSC、原材料及び半年間チェックデータファイルを作成し、SAPへアップロード（前日分取込、編集日付処理含む）、完了フォルダ、問題ありフォルダにファイル入れ、SAPへアップロード、SAPからデリンロードしたXLSX/ZIPfileのxlsファイルSC加工し、完了分の順列、指紋、数値検査実施、加工日付処理
臨床開発推進部	承認申請業務（臨床ポート）における調査資料編集提示RPA化	海外情報編集、臨床提示の記載の調査ポートでレンタルPDF（WORDファイル）、ID入力等、CC、「臨床提示」作成による他作業軽減
CDM開発部	電子データ（SS）解析結果編集作成	各CDM作成用プログラム編集作成、プログラム編集のRPA化
臨床開発推進部	治験ITスタンの問題スペルの追加（ポルトガル）対応	問題スペルの作成
臨床開発推進部	臨床CTRの作成（月次問題編集のためのレポート作成）	新規編集の一部であるが安全性情報編集RPA化（編集者をRPA化）
品質部門	決裁書作	決裁用文書フォーム作成
	文化編集	SAPからE文化データ抽出作
品質人事2	通勤費（社用）記録作成	Google ドライブ、スキャナーで一日分用に、交通費（社用）記録作成作成
安全性推進部	副作用入力修正	PMDDからの安全性情報メールの解作成、編集業務をフローで修正、一部ヨリ日のメール→SCOPEフローでRPAプログラム
安全性推進部	PMDDへの各種ファイル作成	PMDDへの各種ファイル作成
PV部	薬事法ヶ月の編集業務連絡	ドライバ、ボンベ、エアバッ→SC、解体と編集業務連絡用をSCOV、アップロード、問題あるSCL送付
PV部	薬事管理外作編集	Positive/Watch内デリンロード、ルテナー内作成後PDFを作成
物流	調査ドリ作成用、月次の出荷量調査（SCM業務の出荷量）、SCM業務の管理用完全性の確認	SCM（調査ドリ）を用いて出荷量（TACO（調査ドリ）を用いて出荷量）、Acrobat Pro を用いて出荷量比較、内容完了後メルトトレの完全性チェック結果（編集・出荷ロット、月報、作編加工）編集
物流	COHRT関連編集	新規対象の抽出、データ加工、マイクロチャート作成

※RPA、ITSE同じ名称中

02 全社でのRPA推進活動

RPAをはじめとするデジタルツールの 活用により社員の業務価値を高めた

①RPA事務局主体で規程類を整備した。
・業務選定ガイドライン、開発ガイドラインを整備した。
②34業務、51機のロボットを開発パートナーと共に立ち上げた。
・社内で700業務ほどの応募から想定効果、RPA実現度などを勘案し最終的には34業務をRPA化した。
③実際のRPA導入効果について削減時間測定・効果確認を行った。
・RPA導入の効果を削減時間(人間の作業がどれだけ減ったか？)と削減した時間をどのように活用したかの2軸で測定し、RPAの導入効果についての確認を行った。
④RPA推進のための体制を整えた。
・さらなるRPA推進のため、各部門に推進リーダと担当を配置しRPA事務局との窓口を設置した。
・社内に開発者認定制度を設立し、RPAマスター社内認定制度を立ち上げた。
⑤RPA社内広報システムを確立した。
・社内でのRPA認知度を上げるため、社内での成功事例や導入のためのポイント等を紹介する　PRAプロモーションサイトをローンチした。
・プロジェクトロゴ・スローガンを作成し、
プロジェクトの目的意識・モチベーションアップの取り組みをした。

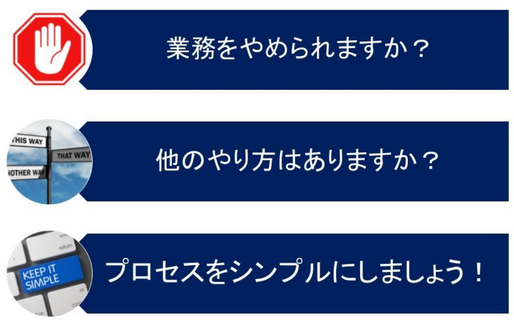
CHUGAI RPA
Reconsider Productive Approach

中外製薬のRPA導入の目的

1. 業務の見直し･標準化による業務プロセスの再構築
2. 定常業務やBPO業務に適用し、業務時間やキャシュアウトを削減
3. より生産性の高い付加価値業務へのシフト

RPAマスター認定ランク

RPA化を実施するときの基本方針



03 社内成功事例

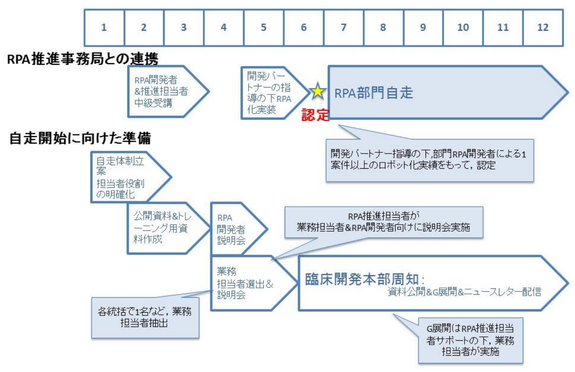
臨床開発本部はどのようにして プロジェクトを成功させたのか

①プロジェクトの目的を明確化し、主要メンバーの結束を図った。
【目的】
・より生産性の高い付加価値業務への時間・費用確保のためRPAを推進する
・「業務の見直し・業務プロセスの再構築」のきっかけとする

②内製化のためのUiPathスキル習得・開発者認定を受けた。
・基礎・中級トレーニング受講により，RPA基本技術を習得
・7名の開発者認定を受けた

③内製化のための体制づくりをした。
・セルフチェックリスト・本部内ルールの作成、周知
・ガイドラインの本部内周知
・ニュースレターの配布、説明会実施

2019年　臨床開発本部 アクションスケジュール



成果
- 自走の準備
  - 自走時の文書類テンプレート作成
  - 自走時の臨床開発本部内ルールの設定
  - PPA業務説明フロー図＆ガイドラインのトレーニング資料作成
  - RPA開発者向け＆業務担当者向け説明会の実施
  - 臨床開発本部RPA SPOの準備
  - 中級トレーニング＆認定トレーニングの受講
  - 開発パートナー指導の下での，UiPath開発＆本稼働
  - ニュースレターの配信

1-2-1．全体（業務選定）

■成果

自走体制による以下の3案件の開発

No.	業務タイトル	業務概要	期待作業削減時間
1	Spotfire帳票の提供	有害事象安全性定期報告用資料の安全性への提供（Spotfireよりエクセル形式で出力。月1で現在25試験実施） ※読込元がcenter file serverから他のシステムに変更予定であるがSpotfire側からの影響はない	75h
2	e-learning用教材ファイルのSCORM変換	e-learning用教材ファイルのSCORM変換	240h
3	書式3（治験依頼書） 書式10（変更申請） 書式16（安全性情報） に関する報告書の作成 （2018年案件の機能追加・変更）	（2018年案件の機能追加・変更） <機能追加・変更内容> ・Wordとともにそのpdfも作成 ・作成されたファイル名を責任医師名から施設名に変更 ・差し込み印刷項目の追加（被験薬の化学名又は識別記号）	93h

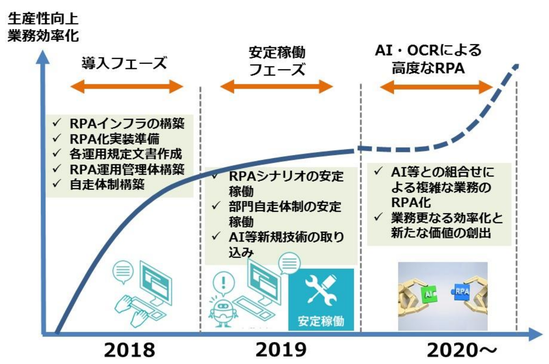
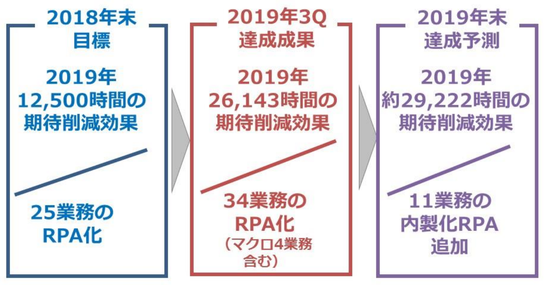
・他部門と情報共有し、他部門で開発された既存のRPAプログラムを効率的に生かす
・開発パートナーが作成した既存RPA改修・拡張を自走体制内で吸収
　⇒開発リソース小、ナレッジの蓄積
・本部内にRPA浸透＆本部員の意識改革（RPA化しやすい環境づくり、業務標準化、業務整理）
　⇒RPA化するための相談をうけるように

04 削減効果/今後

CHUGAI RPAの目指す姿

①最新技術活用によるRPAの適用範囲拡大
RPAへのAI活用など、従来適用範囲外だった業務のRPA化検討
・UipathGOやクラウドサービスなどを活用したRPA適用業務の検討
・RPAをはじめとする業務のデジタル化推進
・RPA内製担当者の拡大とRPAツールの民主化

RPA推進ロードマップ



目標と達成成果（期待削減効果）